

医学生の 広場

Plaza of Medical students

「医学生のつどい」とは、全国の医学生が集まり、1年間を通して学び・交流する企画です。学生が主体となり年間3回開催されます。自分が将来どういふ医師になりたいのか？いま日本ではどのような事が起こっているのかなど様々な興味・関心をもとに、じっくり学習と交流します。



全国医学生のつどい(民医連の医療と研修を考える医学生のつどい) テーマ「いのちの平等 ～過去から織りなす私たちの社会～」

※いのちの平等=身体の生死だけでなく、人間の自由・権利・尊厳なども含みこんだもの

2024年12月21日～22日に12月医学生のつどいin大阪が2日間にわたり開催されました。1日目の講師として、西淀病院の落合甲太医師に貧困に対する大阪府の現状から公正な未来社会へのアプローチを考える講演をして頂きました。実際に企画に参加した医学生は落合医師が上げた事例をもとにSDHの視点でミクロ(現場レベル)・メゾ(地域レベル)・マクロ(国レベル)の3層で3題を捉え共有し解決方法を模索しました。

2日目は城南病院の加賀美理帆医師に旧優生保護法についての人権問題や優生思想についてご講演頂きました。講演後は学生同士で優生思想がどこから生まれるのか・優生思想の具体例を出し合ったりして学びを深めていきました。

学習だけでなく1日目の夜には学年別に分かれ、大学や部活の事をお互いに紹介、将来医師になる仲間として横の繋がりも深めていました。

#優生思想とは

前提: 優れた人間が劣った人間よりも価値がある

社会にとって有用か否かで人間を評価し、有害な人間や不用な人間は排除してよい

被害者は人間社会もしくは社会参加から排除されても仕方がない



〈参加した学生の感想〉

- ・差別が為政者によって作られ、「公益」として正当化されてしまった歴史的事実を決して忘れてはいけないと思った。
- ・県外の学生と学校の試験について話したり、部活で顔を合わせたことがある方もいて楽しかったです。
- ・自分が医師として働く前に、憲法や人権、いま日本ではどのような事が起こっているのかを学ぶ事の重要性を再確認しました。

と感想頂きました!!

看護学生の 広場

Plaza of nursing student

昨年の12月28日(土)に宮崎民医連・医系学生奨学生会議を行いました。医学生・看護学生の6名の奨学生が集まり、「(注1)SDH」をテーマに当院の井上総看護師長よりご講演頂きました。(注1)SDH (Social determinants of health) = 健康の社会的決定要因

講演後は生活を送るうえでの困難や課題を持つ患者さんとそのご家族に対し、問題が解決できるように支援していく方法を班に分かれて意見を出し合い共有しました。グループに分かれてのディスカッションやSDHという言葉を知った学生もあり、『難しかった』との感想もありましたが、『医療従事者として働くうえで患者さんの生活背景や社会背景に目を向ける事が大切だという事が分かりとても良い経験になりました』との感想を頂きました。



班の皆で
考え中



アイス
ブレイクの
新聞紙タワー

久しぶりに顔を合わせる奨学生、はじめて会う奨学生もいて、会議の最初では緊張した表情を浮かべていましたがアイスブレイクや食事交流会で緊張も解け、楽しい雰囲気の中で一年を振り返る事が出来たのではないかと思います。

来年以降も、出来るだけ奨学生全員が参加できる会議や研修を企画し、交流を深めることができるような活動を続けていければと思います。



全体写真

